

なんまぐ 山村ぐらし通信

2019(令和元)年8月発行
通巻第30号版(夏季号)

発行責任者及び発行元:
南牧山村ぐらし支援協議会

問合せ: 南牧村役場
村づくり・雇用推進課
協議会事務局

電話: 0274-87-2011(代)

紙面編集: 松林・谷津



協議会QRコード

協議会HP
<http://nannoku.org/>
活動内容や各種情報を
随時更新中!

【元年度4~6月
空家同合件数】

電話による問合せ 6件
(4月 2件)
(5月 3件)
(6月 1件)

メール・手紙・FAXでの
問合せ18件
(4月 8件)
(5月 6件)
(6月 4件)

現地物件見学案内11件
(4月 4件)
(5月 4件)
(6月 3件)

【協議会ウェブサイト
訪問・閲覧状況報告】

※4/24~(約90日間)

ページ閲覧数 60,353
サイト訪問数 6,096
サイト訪問者数 4,025
(同一人は1と加外)
平均ページ閲覧数
1訪問当り9.90ページ

価値を加えた古民家再生をめざして

現在も続く空き家分布状況調査。毎月最終土曜の午前中に村内の空き家を一軒一軒訪問し、状態を記録しています。既に活動は山場を越え、残る地区はあと少し。根気強く調査に関わるメンバーに、この場を借りて感謝!

そして、かねてから構想していた古民家のリノベーションを、新たなワークとして始めました。活動メンバーは、エネルギーあふれる若者から、今まさに大きな古民家を改修中のオジサ



改修中の空き家を検分するメンバー

ンなど有志6名。建築やリフォームとは無縁の方々ですが、『村に残る古民家をもっと素敵に活用できないか?』『自分たちが住みたいと思える空間づくりをしてみたいよね。』など、構想(妄想)が膨らみます。短期目標と中長期の構想を並行して検討しながら、各メンバーが思い描く古民家リノベーションを実現でき

ればと思います。今年度は、まず古民家の改修に関する知識を吸収するため、村が実施するリフォームや古民家改修工事に首を突っ込ませていただき、素人集団の感性を磨きながら、改修費用の概算をインプットする作業を進めます。並行して、素敵な空間づくりをあれこれ議論しながら、妄想を具体化して

いきたいと思います。立ち上がったばかりの新たなワーク。進める過程では意見の相違やイメージのぶつかり合いも予想されますが、少しづつ形にしていきたいですね。全くの手探り状態からのスタートで、どこまでできるか分かりませんが、まずは一歩踏み出し行動してみます。

古民家改修チーム

寄稿 山村ぐらし支援協議会への期待

警戸育ちの県移住担当です。4月に任命され、南牧村の皆様と関わる機会を得られて嬉しく思っています。

群馬県では、移住者の受入れを担当するキーパーソンが各地で積極的に活動しています。しかし、現状では個人の力に頼るケースが多いことなどから、県では今年度より、地域全体での受入体制を強化する活動を始めました。そうしたなか、村全体で住民と行政が協力し合い、各役割を分担しながらうまく活動されてい

るのが「山村ぐらし支援協議会」だと感じます。こうした活動が県内各地に広がれば、点から面に至る真の「オールぐんま」の受入体制が整っていくものと確信しております。協議会の皆様には、ぜひ県内市町村の先頭に立って、支援活動を盛り上げてほしいと思います。今後とも県担当として、そして村で生まれ育った者として、微力ながら南牧村の活動に協力させていただきますので、よろしくお願ひします。県地域政策課 金井浩二

NEW FACE
協議会メンバー紹介

笑顔で
元気に!

今年4月に地域おこし協力隊として村に来た齋藤元貴さん。現在は道の駅で働きながら、カフェのオープンを計画中です。

我・想・明・村

南牧村に移住して2年に満たない私が「我・想・明・村」を語るには10年以上早い。だが、頼まれた以上、一村民として期待に応えねばならない。そこで、私が常々感じる村の魅力をも3点選んでみた。但し、快適な東京暮らしを捨てて南牧に単身移住した偏屈者の意見であることを了承願ひたい。

1点目は、ひなびた山村景観である。特に「ひなびた」という点がポイントだ。私は、このひなびた景観に魅かれてこの村に移住しようと思ったのである。南牧村には、かつて養蚕とコンニャク栽培で潤った名残があり、立派な古民家が数多く残る。それらが石垣とセットで、よくぞこんな場所に建てたと思う急峻な斜面に建ち並ぶ景観は秀逸だ。特に、南牧川の支流に開けた集落には昔ながらの景観がよく残っている。日本の原風景ベスト10には確実に入るだろう。その代わり南牧には、観光客が喜びそうな立派なつり橋もなければ、鍾乳洞もない。最近星尾温泉ができたが、暫く温泉もなかった。道の駅があるのが救いだ。観光でお金を落とせる場所が少ないのが難点である。しかし、おかげで昭和の風景が手つかずで残り、山村の価値を高めていると私は思う。2点目は、歴史である。石垣・風穴寺社・石仏など、村内には山里の歴史や文化の跡が

至る所で見られる。今は杉林で隠れているが、かつては段々畑が山頂付近まで開かれていたそうだ。この景観をタイムマシンに乗り見てみたいと思うのは私だけではない。今も残っている世界農業遺産になるだろう。また、威怒軍不動・皇滝山不動寺・警戸鉾山跡など、パワースポットとして売り出せそうな場所も点在する。南牧八人衆といった戦国時代の武勇伝もある。いつか誰かが小説にすることを期待したい。3点目は、やはり岩と山である。西上州では妙義山と荒船山が有名だが、南牧村の岩も大したもの。西上州のマッターホルンと呼ばれる碧岩・大岩をはじめ、立岩・毛無岩・兜岩山のローソク岩など岩には事欠かない。また、特異な岩峰の鹿岳、西上州の地味な山々を一望できる小沢岳や烏帽子岳も捨てがたい。まさに通好みの山域といえよう。最後に、南牧村は消滅可能性No.1と、行く末がズバリ予測されている。しかし、未来は予測が難しいものだ。なくなるという言葉が持つ持続するかもしれない、一発逆転の何が起きるかもしれない。私も一村民として、逆転は難しいがお宝を探すつもりで、村の魅力を発見していきたい。そして、見つけたお宝を嬉しがる様子を偏屈者に発信したいと思う。少年の瞳を持つ壮年寄稿

タイムマシンなんもく号



尾澤小学校の運動会の写真です。正確な年代は分かりませんが、昭和20〜30年代ころでしょうか？校舎も鉄筋コンクリートではなくまだ木造です。今の運動会と比較すると子供達と参加者の多さに驚きます。「俺なんか子供の時はいくらも子供がいて…」とはよく聞くものの、改めて写真で見ると高齢化が進み子供が少なくなった頃の南牧村しか知らない自分に見てみればとても新鮮な光景です。

今では小学校という役目を終え、この場所は南牧村民俗資料館となっていています。元々は小学校だった頃自分もこの場所に通ってました。毎日遊びながら歩いた通学路や授業の風景、遠足や運動会の様子もおぼろげに思い出されます。そういえば何かの授業で校庭にタイムカプセルを埋めたことがあったような…。皆さんの子供時代はどうだったでしょうか。

〜協議会メンバー寄稿〜

『ぶらりなんもく村』

〜小沢地区の天女窟〜

私が住んでいる小沢地区には、地域の人に「弁天様」の愛称で親しまれている「天女窟」という洞窟があります。

この洞窟の石壁には、江戸時代中期の書家として有名な沢田東江作と伝



「天女窟」の石壁書

時の有名人が訪れたという場所があるのだなと少し嬉しい気持ちになりました。そんな東江作の石壁書の下から洞窟の内部を覗き見ると、水が洞窟の中を流れている様子が観察できます。

小沢地区に住む村の方にお話しを伺ってみる

と、この地区の水道水は天女窟から流れ出た水を水源としているそうで、普段家で何気なく使っている水もこの洞窟から流れてきているのかと思うと非常に感慨深いものがあります。蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水道水が、もともとどこからやってきた水なのか、都会に住んでいけば実際にその水源に赴くことなんてほとんどできないと思います。自分が生活をしている地域の中に天然の美しい水源がある。これもまた水に恵まれた南牧村に住んでいるからこそ味わうことのできる幸せなのだと思います。

〜鰯川会員寄稿〜

からしたね

まるで雲海の中にすっぽりと入り込んでしまったような景観を見せる梅雨時期。早朝のなんもく村。乳色の霧(もや)が毎日のように山山の頭を押さえつけ雨を降らせ、人々はその気配を伺うことに気を遣うように…。遠慮のないスカッとした南牧村が待ち遠しいのです。やはり押さええられているのか？なにかを気にしているのか？なにかを気にしているのか？なにかを気にしているのか？なにかを気にしているのか？

空き家を探しています！

現在、南牧村にはたくさん空き家があります。協議会では、村内に移住を検討されている方に紹介できる空き家を探しています。「貸したいけれど、荷物が残っている。」「建物が傷んでいるので貸しづらい」など、空き家に関する相談はいつでもか。

役場の村づくり・雇用推進課までお問い合わせください。

古民具・建具再生利活用

〜プロジェクト始動〜

協議会では現在、空き家の有効活用の一環として「古民具再生利活用」を試行中です。

村内で空き家が解体処理される現場に出会う度に、処分される古民具や農具、建具を見て「もったいないなあ」「何とかならないかなあ」と考えていました。

ご連絡いただいた民家や蔵に上がらせていただくたびに、「すごい！」「素敵！」とメンバー一同声を上げながら回収させていただいています。

現在アイテム数は五十点あまりで、使い道についてはメンバーで相談中です。

例えば移住してきた方や、村内でお店を開きたい方に無償で貸し出す等、いろんな意見が出ています。単に珍しいものとして飾るのではなく、使いたいです。



木製のガラス戸



まだまだ使えるような箱



懐かしさを感じる鏡台



背負子も味わい深い佇まい

インテリアに使えるような足踏みミシン台



昔ながらの小物入れ



協議会からのお知らせ

「これ、よかったら、使ってくれ！」という古民具や建具などがお宅にございましたら、ぜひお知らせください。(もちろん、何でも、というわけではありません)

〜連絡は、役場の村づくり・雇用推進課もしくは協議会会員までお願い致します。